

シニア世代は十人十色 — 1 —

# 「地方部シニア」よりも長寿で長生き？ 6割を占める「都市部シニア」市場の成長力

シニア世代も十人十色。それでは居住するエリアによって、シニアの行動や特性に違いがあるのだろうか。特に首都圏など都市部に居住するシニアと地方に居住するシニアに違いがあるのかという疑問を持っている人も多いのではないだろうか。本稿ではいくつかのデータをもとに、都市部に住まうシニアと地方に住まうシニアの違いを解説する。

※本論における都市部と地方部の県別区分定義は注1の通り

## 高齢者は地方に居住は幻想!? 都市部シニアは成長市場

まず、都市部と地方部のシニアのボリューム比較をしてみた。日本では高度経済成長以降、数十年にわたって東京、大阪など都市部への人口流入が続いている。その結果、都市部における高齢者人口も相当なボリュームになっているのではないかと。

国勢調査(2020)をみると、首都圏、中京圏、近畿圏の3大都市部の65歳以上高齢者総数は、1787万人で、日本全国の高齢者総数(3534万人)の約半数(50.6%)を占めている。高齢者は地方に多く居住しているというイメージをお持ちの方もいるだろうが、そうしたイメージはすでに過去のものであり、むしろ高齢者は都市部に多く居住していると考えた方がよさそうである。今後、この都市部の高齢者比率はさらに増加すると予想される。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2050年における3大都市部の65歳以上高齢者総数は2348万人と見込まれ、高齢者総数の6割を都市部シニアが占めることになる【図1】。とりわけ高い伸び

率が見込まれるのは首都圏、なかでも東京都と神奈川県で、2020年の高齢者数を100とした場合、2050年にはそれぞれ133%、126%の増加が見込まれている。マーケットボリュームから見た場合に、都市部シニアは成長市場である。

## 健康で長寿のシニアは比較的に、都市部に多い

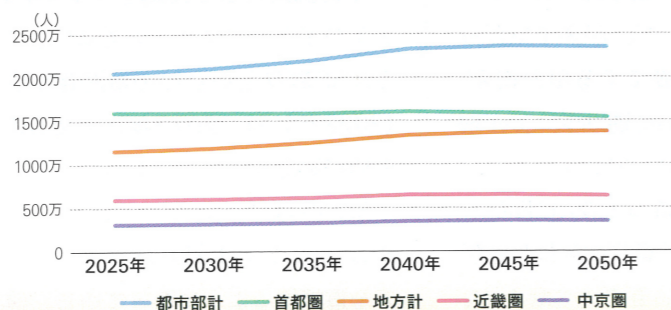
日本は世界に冠たる長寿国家であるが、居住エリア別に平均寿命を見ていくと、いくつかの違いや特徴が見えてくる。【図2】は、市区町村別に見た男女別平均寿命ベスト20である。長寿県として知られる長野県などに並んで、神奈川県、東京都、京都府の各市区町村が顔を並べてい

る。平均寿命上位50における都市部の市区町村数は、男性で31、女性は18市区町村を数え、都市部シニアの長寿を伺わせるデータとなっている。

都市部シニアが比較的、長寿であるということは、同時に健康寿命が長いとも言えるのだろうか。健康寿命に関する地域別データはないため、県別の要介護認定数を指標として採用してみよう。2021年度における65歳以上全国高齢者の要支援・要介護認定率は、19.5%、つまり2割弱の高齢者が認定を受けていることになる。これを県別に見ると、要介護認定率の低い県として挙げたのは、茨城県、栃木県、埼玉県、群馬県など首都圏郊外の県であった。

一方、大阪府、和歌山県、京都府、

図1 エリア別65歳以上人口予測



出所/国立社会保障・人口問題研究所推計

図2 市区町村別に見た男女別平均寿命ベスト20

順位	男				女			
	都道府県	市区町村	平均寿命(歳)	都道府県	市区町村	平均寿命(歳)		
1	神奈川県	川崎市 麻生区	84.0	神奈川県	川崎市 麻生区	89.2		
2	神奈川県	横浜市 青葉区	83.9	熊本県	上益城郡 益城町	89.0		
3	長野県	上伊那郡 宮田村	83.4	長野県	下伊那郡 高森町	89.0		
4	愛知県	日進市	83.4	滋賀県	草津市	89.0		
5	京都府	木津川市	83.3	兵庫県	芦屋市	88.9		
6	神奈川県	鎌倉市	83.3	東京都	世田谷区	88.9		
7	長野県	諏訪郡 原村	83.3	東京都	小金井市	88.9		
8	神奈川県	横浜市 都筑区	83.3	山梨県	南都留郡 富士河口湖町	88.8		
9	滋賀県	草津市	83.3	長野県	上伊那郡 箕輪町	88.8		
10	長野県	下伊那郡 豊丘村	83.3	長野県	伊那市	88.8		
11	大阪府	箕面市	83.2	岡山県	浅口郡 里庄町	88.8		
12	奈良県	生駒市	83.2	長野県	佐久市	88.8		
13	長野県	北安曇郡 白馬村	83.2	神奈川県	横浜市 青葉区	88.8		
14	東京都	世田谷区	83.2	東京都	武蔵野市	88.7		
15	東京都	武蔵野市	83.2	沖縄県	中頭郡 北中城村	88.7		
16	長野県	伊那市	83.2	神奈川県	横浜市 都筑区	88.7		
17	宮城県	仙台市 泉区	83.2	熊本県	宇土市	88.7		
18	長野県	下伊那郡 松川町	83.2	京都府	京都市 左京区	88.7		
19	長野県	木曾郡 南木曾町	83.2	沖縄県	豊見城市	88.7		
20	長野県	上高井郡 小布施町	83.1	熊本県	熊本市 南区	88.7		

出所/厚生労働省「令和2年市区町村別生命表の概況」

兵庫県など近畿圏各県は軒並み介護認定率の高い県としてランキングされる。介護認定に関しては、社会保障に関わる財務事情、それぞれの地域の介護認定の方針などによって異なる可能性もあるため一概に断定はできないものの、このデータから読み取る限り、首都圏に在住するシニアは比較的、健康寿命が高い人々と言えるかもしれない。

## 都市部シニアの 高い年金受給額

次に所得について。65歳以上になると多くの高齢者の所得の中心は、厚生年金、国民年金などの公的年金が中心となる。そこで厚生労働省が発表している県別の厚生年金保険(第1号)の平均年金額(令和4年度末)を調べてみた【図3】。全国平均の年金月額が、14万4982円であるのに対して、今回の3大都市部に属する県は、栃木県、群馬県、和歌山県を除いたすべての県が平均値

を上回っており、逆にそれ以外の地域に属する県は、静岡県を除くとすべての県で平均値を下回っている。

簡潔に言うと、3大都市部のシニアの所得は、地方部シニアの所得を大きく上回る。最も年金額の高い県(神奈川県)と低い県(青森県)の年金の差額は年間50万円におよぶ。厚生年金の受給額の多寡は、基本的には現役時代に支払った標準報酬月額に比例する。多くの上場企業が本社を置く都市部に勤務する社員の比率が高い3大都市部に居住するシニアの年金額も、従って高いということになる。

## 都市部と所得差はあるものの ランニングコストが低い地方部

このように見ると、高齢期における所得、平均寿命などにおいては、地方居住のシニアよりも首都圏、中京圏、近畿圏などの都市部に居住するシニアの方が、データから読み解く限り上回っていると言えるのであ

攻略すべきはZ世代より、おとなマーケット  
シニアの熱狂が市場を動かす



図3 厚生年金保険(第1号)の  
平均年金額上位15都道府県

順位	都道府県	厚生年金保険(第1号)平均年金額(円)
1	神奈川県	164,088
2	千葉県	158,918
3	東京都	157,478
4	奈良県	156,630
5	埼玉県	155,412
6	愛知県	154,191
7	兵庫県	153,197
8	大阪府	150,477
9	滋賀県	148,134
10	茨城県	146,466
11	京都府	145,774
12	三重県	145,528
13	静岡県	145,456
14	広島県	144,695
15	岐阜県	143,622

出所/厚生労働省「令和4年度厚生年金保険・国民年金の事業の概況」

る。しかし一方で、消費支出や保健医療費、住宅・土地のための負債割合なども高く、生活面のランニングコストも高みがちだ。

総務省「社会生活統計指標」で、都市部と地方部の違いを見ていくと、地方は消費者物価も全般的に低く、人口あたりの介護老人福祉施設や高齢者医療施設などは都市部に比べると充実している。加えて、高齢者向けの学級・講座数、社会体育施設、公民館数など、シニア利用の高い公的施設は地方部が概ね充実している。所得差はあれども、地方シニアはこうした施設をうまく活用しながら日常生活を楽しんでいるのである。■



超高齢未来観測所  
所長  
斉藤 徹氏

超高齢社会と未来予測研究をテーマに執筆、講演などの活動を行う。元電通シニアプロジェクト代表、電通未来予測支援ラボファウンダー。国際長寿センター客員研究員、早稲田大学Life Redesign College(LRC)講師、宣伝会議講師。著書に『超高齢社会の「困った」を減らす課題解決ビジネスの作り方』(翔泳社)、『超高齢社会マーケティング』(ダイヤモンド社)、『団塊マーケティング』(電通)など。

※注1:「都市部シニア」は、首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県)、中京圏(愛知県、岐阜県、三重県)、近畿圏(大阪府、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県)に居住する65歳以上シニア、その他の県に居住する65歳以上シニアを「地方部シニア」と区分した。